

にぎわい都市創造部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

難易度

自己評価

農業・商業・工業等の産業振興



（評価検証）平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

【農業経営の安定化と地元農産物の知名度アップ】

- ・農業従事者を確保し遊休農地の解消を図るため、ぶどう担い手塾を開催します。
- ・農業経営の安定化を図るため、有害鳥獣の計画的駆除などを行います。
- ・地元農産物などの知名度アップを図るため、商工会や農業啓発推進協議会などと連携し、地元農産物を使った新メニューの開発や市外でのPR販売を行います。

取組結果・実施状況

【農業経営の安定化と地元農産物の知名度アップ】

- ・ぶどう栽培を本格的に始めようとする方などを対象に、遊休農地を活用して「ぶどう担い手塾」を開催しました。
- ・農作物に被害を与えるイノシシ・カラスなどの有害鳥獣の捕獲を行うと共に、農地への侵入防止柵の設置に対して補助金を交付して、設置促進を図りました。
- ・商工会や農業啓発推進協議会などと連携し、地元農産物を使った新メニューを開発するため、ぶどう・みかんを使った新メニューを食品関係者に募集し、開発された商品は市広報誌などを通じてPRしました。さらに、市特産物については、天神橋筋商店街など、市外でのPR販売も行いました。

【商工業の活性化と創業者支援】

- ・ 商工業者の新規顧客の獲得や販路拡大を図るため、市内事業所情報サイト「柏原・まち・ひと・しごと net」の充実とサイトの周知を図ります。
- ・ 創業者支援のため、市、商工会、日本政策金融公庫が連携し、創業者支援事業を行います。
- ・ 商業の活性化のため、空き店舗を利用した新規出店促進事業を行います。
- ・ 小規模事業者の事業安定化のため、資金融資の斡旋を行います。

【商工業の活性化と創業者支援】

- ・ 柏原市事業所情報サイトの登録事業者数を増やすよう、登録の勧奨を行いました。
- また、サイト機能を活用して「ウェブ版就職フェア」を2カ月間実施し、雇用の促進を図りました。
- ・ 柏原市創業支援事業計画に基づき、創業に関する「経営」「財務」「販路開拓」「人材育成」の基礎的な知識習得セミナーを9月及び11月の計5回開催しました。
- ・ 柏原市と泉佐野市が両市の物産品を共同で情報発信することを目的に「特産品相互取扱協定」を締結し、両市で開催されたそれぞれの物産展で、PR販売を行いました。
- ・ 空き店舗を使って出店する事業者に補助金を交付し、市内での新規出店者を促し、商業の活性化を図りました。
- ・ 小規模事業者の事業安定化のため、資金融資の斡旋を行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

【農業】

- ・ぶどう担い手塾を開講 ⇒ 受講者 25 人
- ・有害鳥獣の駆除 ⇒ 年間駆除予定数：イノシシ 150 頭、アライグマ 70 頭、カラス 300 羽
- ・侵入防止柵設置面積 ⇒ 3ha
- ・市外での地元農産物等のPR ⇒ 年間5カ所
- ・地元農産物を使った新メニューの開発 ⇒ 飲食店など 20 店舗

【商工業】

- ・「柏原・まち・ひと・しごと net」掲載事業所数 ⇒ 500 件
- ・柏原市創業者支援事業計画による支援 ⇒ 創業支援者数 95 人
- ・新規出店促進事業 ⇒ 2 店舗
- ・柏原市小規模企業事業資金融資斡旋 ⇒ 5 件

取組結果・実施状況

【農業】

- ・ぶどう担い手塾の開催 4月～9月 2月～3月 25 名
- ・有害鳥獣の駆除 イノシシ 211 頭 カラス 166 羽
アライグマ 84 頭
- ・侵入防止柵設置面積 2.66ha
- ・市外でのPR販売 11 回
- ・地元産農産物を使った新メニュー
ぶどう 11 店舗 みかん 8 店舗

【商工業】

- ・「柏原・まち・ひと・しごと net」について、事業者に対し登録の勧奨を行った結果、登録事業者数が 69 件増えて 410 件となりました。
- ・柏原市創業者支援事業計画による支援者について、61 人の創業を希望する者にセミナー等を開催し支援を行いました。
- ・新規出店促進事業について、市内に 2 店舗が新規出店しました。
- ・柏原市小規模企業事業資金融資斡旋については、希望する事業者へ斡旋を行い、1 件の事業者へ経営支援を行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

【農業】

- ・農業従事者の育成による遊休農地の解消により、農地を保全することができます。
 - ・ぶどう担い手塾の受講により新規就農者が育ちます。(2名)
 - ・有害鳥獣の駆除や侵入防止柵設置による農産物被害の軽減や地元農産物の知名度アップ、販路の拡大により経営の安定化が図られます。
- ⇒ 市民意識調査での満足度が上昇します。

【商工業】

- ・商工業者の新規顧客の獲得と市内外での消費拡大が図られます。
- ⇒ 市民意識調査での満足度が上昇します。
- ・商工業者が育成され、新規創業者が増加します。(9名)

取組結果・実施状況

【農業】

- ・ぶどう担い手塾の開催により、農業従事者が育成され新規就農者が1名育ちました。
 - ・有害鳥獣から農業を守り、ぶどうを中心とする特産品の消費拡大に取り組みました。特に特産品を使った新メニューの開発は特産品の付加価値を高め、市内商店の利用拡大に貢献しました。
- 農業全体の満足度はほぼ横ばい状態となっています。

【商工業】

- ・商工会との連携事業や事業所情報サイトの活用により、商工業者の新規顧客の獲得と市内外での消費拡大が図られたと考えますが、PR不足などにより市民意識調査の満足度は低下しました。
- ・新規出店促進事業により、空き店舗を利用し2店舗が開業されたことにより空き店舗の減少を図るとともに、新規創業者についても目標を上回る11名が創業され、商工業者の育成が図られました。

地域就労支援の推進



(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

- ・働く意欲があるにも関わらず就労阻害要因のある就職困難者の雇用機会を確保するため、地域就労支援コーディネーターによる就職相談を実施します。
- ・市内企業への雇用の拡大を図るため、就職フェアや会社見学会を開催します。
また、より広範囲な求人と求職のマッチングを図るため「柏原・まち・ひと・しごと net」を活用した web 版就職フェアを実施します。

取組結果・実施状況

- ・地域就労支援事業として、障害者、一人親家庭の親、学卒無業者の若年者、中高年者など、それぞれの特性ごとに対応できるように地域就労コーディネーターを2名配置し、きめ細かな相談の充実を図りました。
- ・市内企業への雇用の拡大を図るため、ジョブマッチング in 柏原、やお・かしわら合同就職フェアを開催しました。
また、より広範囲な求人と求職のマッチングを図るため「柏原・まち・ひと・しごと net」を活用したウェブ版就職フェアを開催しました。
- ・平成28年5月に本市、柏原市商工会、大阪労働局の3者で「柏原市雇用対策協定」を締結し、市内企業等の人材確保事業、市内における就労支援を必要とする方等の就労促進事業を行いました。

- ・市内高校生を対象に、地元企業の魅力発見や進路選択の参考となるよう市内企業見学会を実施しました。
- ・介護職の人材不足の解消の取組みとして、ハローワークと共催で介護施設見学会&面接会を開催しました。
- ・雇用主や障害者支援者等を対象に、障害者雇用の理解や雇用拡大に繋げるため、本市、八尾市、八尾・柏原障害者就業・生活支援センター、大阪総合労働事務所と共催で「障害者雇用を考える集い」を開催しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- ・地域就労支援コーディネーターによる年間支援者数 ⇒ 90名
- ・就職フェア参加企業数、参加者数 ⇒ 18社、120名
- ・web版就職フェア参加企業数 ⇒ 12社
- ・就職相談による就職者数 ⇒ 50名
- ・就職フェア及びweb版就職フェアでの就職者数 ⇒ 10名

取組結果・実施状況

- ・地域就労支援コーディネーターによる年間支援者数 ⇒ 73名
- ・ジョブマッチング in 柏原の参加企業数17社、参加者数152名
- ・やお・かしわら就職フェア参加企業数24社、参加者数130名
- ・web版就職フェア参加企業数 ⇒ 13社
- ・就職相談による就職者数 ⇒ 42名
- ・就職フェア及びweb版就職フェアでの就職者数 ⇒ 3名
- ・高校生を対象とした企業見学会の見学企業6社、



参加高校生38名
・介護施設見学会&面接会の見学施設数4社、
参加者16名、うち就職者1名
・障害者雇用を考える集いの参加者数64名

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

- ・就職困難者の就労により、生活保護受給者等の減少及び生活基盤の安定化が図られます。
- ・地元企業への雇用拡大により、本市への定住化及び市税の増収が図られます。

取組結果・実施状況

- ・地域就労支援コーディネーターによる就労支援・職業相談は、就労困難者を就職に導き、生活保護受給者への移行を減少させると共に、生活基盤の安定化を図りました。
- ・本市で開催した「ジョブマッチング柏原」、「ウェブ版就職フェア」、「介護施設見学会&面接会」「高校生の企業見学会」など、地元企業への雇用確保の取り組みを行い、身近な地域で働く場を確保し、定住化を進めました。

重点課題 ③

難易度

自己評価

協働のまちづくりの推進



(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

・地域住民や市内企業がそれぞれができる力や強みを持ち寄って「自分たちのまちは自分たちでつくる」を合言葉に、協働のまちづくりにつなげることを目標とします。

取組結果・実施状況

・「地域で暮らす住民や、頑張っておられる各種団体」などが参加して、住民自らが地域の課題を導き出し、自らの強みを持ち寄って、課題解決に繋がる事業を考えるためのワークショップ「まちづくり意見交換会」を開催しました。

さらに、まちづくり意見交換会の最終回として、意見交換会の参加者に企業、NPO、ボランティアを加えた「企業・NPO・ボランティア地域交流会」を開催し、地域が一体となって、地域の課題解決のため、新たな事業を考え、まちづくりを進める取り組みを行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

・年間4回程度意見交換会を開催。参加者は公募とし、1回20～30名程度を予定し、4回目には市内企業5社の参加を目指す。

取組結果・実施状況

・まちづくり意見交換会には当部の職員はもちろん、まちづくり部、子ども未来部などからも職員が参加し、組織の枠を超えた横断的な取組みとしました。(全5回)

この意見交換会では、参加された住民自らが地域の課題を考え、課題解決のため積極的に議論された結果、最終的に5つの事業案が出されました。

⇒ 参加者 各回約30名

・5回目では、市内外の企業15社を含めた42団体などから51名が参加していただき、その事業案に対しどのようなサポートができるかを提案してもらった「企業・NPO・ボランティア地域交流会」を開催しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

・地域の様々な課題に対して、住民や地元企業が一体となって取り組むことにより、自発的な市民活動を促進するとともに企業にとっても新たな企業活動へのきっかけづくり等に寄与します。

取組結果・実施状況

・住民自らが地域の課題を導き出し、課題解決のための事業案を創りだし、地元企業などと一体となって地域の課題解決に取り組むことができることを「まちづくり意見交換会」で経験したことにより、まちづくりに対する自発的な市民活動を促進することができたと考えています。

また、企業などにとっても住民ニーズの把握や地域貢献へのきっかけづくりとなりました。

これにより、第4次柏原市総合計画の政策目標である「健全な行財政運営が行われ、市民主体のまちづくりが実現している」まちづくりへ少し近づいたと考えます。

防犯対策の推進



(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

- ・町会等が管理する防犯灯のLED化を推進し、今年度末のLED化率50%を目指します。
- ・平成26年度から実施している、町会等への防犯カメラ設置補助制度を継続して実施し、最終目標設置台数100台の達成にむけ設置を促進するとともに一層の安全対策推進のため、警察と連携を図りながら、市内主要道路に市が主体となり防犯カメラを設置する事業を実施します。

取組結果・実施状況

- ・市内114町会との連携により、防犯灯のLED化を推進。取替工事及び新設補助制度の実施により、本年度末のLED化率は約53%に達する見込みです。
- ・防犯カメラ設置補助制度の最終目標設置台数100台(5か年)に対し、本年度末で59台が設置されることとなり、最終目標台数に向けて設置を進めています。また、本市全域の防犯環境の整備や市外からの犯罪流入阻止を目的として、市内の国道・府道の信号柱等に市主体で防犯カメラを設置する、安全対策推進防犯カメラ設置事業を実施しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

- ・LED 防犯灯事業として、平成28年度は新設・取替合わせて370本のLED防犯灯を設置することにより、市内約6,440本の防犯灯のうち約50%の3,220本のLED化を目指します。
- ・町会への補助制度により、平成26年度21台、平成27年度18台の防犯カメラを設置しました。本年度も20台に補助することで、最終目標台数の50%以上の達成率を目指します。また、主要道路への設置は8台を目標とします。

取組結果・実施状況

- ・H28年度末までに約400本のLED防犯灯を設置し、市内約6,500本の防犯灯のうち、約3,400本がLED化される見込みとなり、目標の50%を上回ることができました。これにより、暗がりや死角など地域の危険箇所を明るくすることで、犯罪の未然防止や安全・安心の向上を推進しました。
- ・防犯カメラの設置については、町会への補助制度と併せて市主体で主要道路への設置する安全対策推進防犯カメラ設置事業を警察と密に連携を図りながら市内8カ所に設置したことにより、本市の防犯環境の強化や犯罪の抑止への効果が向上しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

・市民の防犯意識を高めるとともにハード面の整備を進めることで、大阪府下33市で最も街頭犯罪発生件数の少ない市＝「安全・安心」大阪ナンバー1の実現に寄与します。

取組結果・実施状況

・防犯灯のLED化推進や防犯カメラの設置等のハード面の整備により、本市の平成28年の街頭犯罪発生件数は291件で府下33市中4番目に少ない件数となり、第4次柏原市総合計画の施策目標である「地域の治安が守られ、市民が安全に安心して暮らしている」まちづくりの実現の一助となったと考えます。

重点課題 ⑤

難易度

自己評価

市民郷土まつりの賑わい向上

B

達成

(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

・市民郷土まつりについては、主催団体である市民総合フェスティバル実行委員会へ補助金を交付すること等により支援しています。平成25年度から「かしわら花火」が再開され、賑わいの向上が図られていますが、安全対策の強化や警備費用等の大幅な増加など、開催に向けて多くの課題も生じています。

本年度はこれらの課題を踏まえながら、市民総合フェスティバルがまちの魅力発信や地域の活性化を図るイベントとなるよう、実行委員会を支援してまいります。

取組結果・実施状況

・実行委員会で本年度の催しについて検討された結果、熊本地震の被害拡大を受け、花火大会に替えて復興支援関連のイベントを実施し、被災地支援と地域の活性化を図ることとされました。

それにより6月12日、9月5日、11月5日の3回にわたり、市民郷土祭りなどのイベントと同時に、熊本県等の特産品販売、復興支援イベントや募金活動が実施されました。

補助金による財政的支援をはじめ、安全対策、広報、イベント企画運営等について、実行委員会を支援しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

・実行委員会に参画する市内教育機関、企業、市民団体と連携を図りながら、商工まつり、スポーツフェスティバル等、他のイベントとタイアップし市民郷土まつりとしての催しを実施します。

取組結果・実施状況

・実行委員会の構成団体である、大阪教育大学や市内企業、体育協会、商工会等と連携を図りながら、以下の3回にわたり、イベントを実施しました。

- ① 6月12日：とくとくトラック市の共催により、熊本県等の特産品販売やくまモンを招致したイベントを開催。
来場者約 3,000 人
- ② 9月10日：市民郷土まつりの一環として、かしわらシアターや夜店などのイベントを実施し、同時に熊本復興支援に向けた募金活動や被災地の写真展示を実施。
来場者約 1,500 人
- ③ 11月5日：市民総合フェスティバルにおいて商工まつり、スポーツフェスティバル、市民郷土まつり、熊本復興支援イベント、消防・警察等の協力による防災イベントを同時開催。
来場者約 20,000 人

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

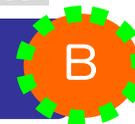
アウトカム

・市民郷土まつりを様々なイベントとタイアップして実施することで、相乗効果により本市のPRや地域の活性化が図られ、「にぎわい大阪ナンバー1」の実現に寄与します。

取組結果・実施状況

・市民郷土まつりにおいて熊本復興支援を目的とした催しを実施し、大阪府下でいち早く、くまモンの招聘や熊本の特産品販売を行ったことで、テレビニュース等でも取り上げられ、本市のPRを図ることができました。また、とくくとトラック市やJAまつり、商工まつり、スポーツフェスタなど、様々なイベントとのタイアップすることにより、相乗的に地域の活性化を図ることができ、第4次柏原市総合計画の施策目標である「産業が育ち、地域に活力と賑わいがあふれている」まちづくりへの実現に寄与しました。

若者の移住・定住化の促進



(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

・出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援の一つとして、結婚を考える市内外の若者を対象とした出会いの場を提供し、移住・定住化を促進します。

取組結果・実施状況

異性と出会う機会の少ない独身男女に対して、交際のきっかけとなる出会いの場を提供しました。柏原市の良さをアピールでき、交際を進める中、恋愛から結婚へと進展することで移住・定住化を図りました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

・ 竜田古道の里山公園や、柏原市内のぶどう畑、ワインなどの地域資源を活用し、若者の出会いの場を創出します。年間で4回程度イベントを開催します。

取組結果・実施状況

・ 竜田古道の里山公園において、バーベキューパーティを催し、20歳から49歳の独身の方を募集したところ、男性38人（市内11人）、女性35人（市内12人）の参加があり、14組のカップルが誕生しました。第2回を3月に実施し、出会いの場を創出することにより、移住・定住の促進につなげていきます。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

・若者の出会いの場を創出することにより、「子育てナンバー1」の取組み、暮らしやすさなどの柏原市の良さを紹介し、移住・定住化を促進することで、活気あふれるまち「柏原市」の実現に寄与します。

取組結果・実施状況

・柏原市およびその周辺に居住される方が参加され、竜田古道里山公園で開催したことで、豊かな自然に囲まれた柏原の良さを紹介することができました。次回は、夕日の綺麗なサンヒル柏原で開催し、柏原の魅力や暮らしやすさをアピールすることで移住・定住化を促進し、柏原市創生総合戦略の基本目標の一つである「住んでみたい、住み続けたいまち かしわら」の実現の一助となると考えます。

重点課題 ⑦

難易度

自己評価

地域資源の利用による交流人口の増加



(評価検証) 平成28年12月31日

★目指す方向の実現に向けて、今年度は何をするのか？

遂行目標

・豊かな自然環境や歴史的な資源を活かし、森ガイドやまちガイドなどの市民ボランティアの育成に取組み、交流人口の増加による観光振興と地域活性化を図ります。

取組結果・実施状況

・歴史的な資源や豊かな自然に恵まれた本市の魅力をより多くの方に知っていただくとともに、本市を訪れる方々に対するボランティア案内人としての知識、参加者に楽しんでもらうための技術などを習得したボランティアの育成に取組みました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

・「市民ボランティア養成講座」を年間8回程度開催し、地域の人材育成及びネットワークをつくります。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

アウトカム

・新たな地域人材ネットワークの構築により、自発的な市民グループの活動につながり、市民活動の活発化や市内の交流人口の増加、地域の活性化等が図られます。

取組結果・実施状況

「市民ボランティア養成講座」

- ・「効果的なイベントチラシ～魅力ある情報発信」
- ・「山で見つけた自然素材で作るクラフト～竹細工」
- ・「“真田丸”の舞台をめぐる～後藤又兵衛の視線」
- ・「高井田の自然を観察してみよう」
- ・「万葉集に詠まれた景勝の地～亀の瀬をめぐる」

柏原市の歴史資産や自然環境活かした講座を5回開きました。

延べ68人の参加をいただき、案内人としての基本的な知識や技術の習得を図ることができ、新たに案内人となることのできる人材の発掘ができました。

取組結果・実施状況

ガイド講座実施回数などは目標値には届きませんでした。が、講座の開催や情報発信などにより、市内外の方々に本市の魅力を発信できました。このことから、柏原市創生総合戦略の基本目標の一つである「住んでみたい、住み続けたいまち かしわら」の実現の一助となったと考えます。

(評価日) 平成29年2月6日

市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

市長のコメント

- ・ 就労支援事業は関係各課と今後も協議しながら推進していくこと。
- ・ 観光協会は出来るだけ早くスタートさせる事ができるよう調整すること。
- ・ 案内板の多言語表示に取り組むこと。